



日立市「フレンドリーあんず」

茨城県内に住む外国人は、およそ4万9千人あまり（H24年末現在）。その中でも日立市に住む外国人は1300人ほどを占めます。日立市には大手企業や大学もあり、そこで働き学ぶ外国人も少なくありません。外国から日立市へやってきた外国人たちへ様々なサポート活動を行っているのが、今回紹介する「フレンドリーあんず」（以下、あんず）です。



右から半田さん、小塚さん、金岡さん、諸沢さん、石田さん、福地さん、田所さん

このあんずの代表を務めるのが福地季子（としこ）さん。福地さんをご主人の仕事柄、海外出張などで外国の生活文化に触れる機会が多かったこと、会の活動で海外に行ったり留学生とのお付き合いをしたことが、国際交流を始めるきっかけとなったそうです。「遠い異国の地で暮らすことは、決して楽なことではないということを持て理解していました。様々な理由で日本に来た彼らが安心してこの日立市で暮らすことが出来れば、という思いがこの活動の原点です」と福地さん。手探りからスタートしたこの活動も12年目を迎え、今では夏祭り・冬の年忘れ会の2大イベントを始めとし、週2回の日本語教室や、料理や生け花など互いの文化交流や地域活動への交流も盛んに行われています。

取材に訪れたこの日は、日立市や消防本部との共同で外国人を対象とした防災訓練が行われました。2011年の東日本大震災以降、日本では防災意識の高まりが顕著ですが、その一方で日本に住む外国人への防災啓発



消火訓練する参加者

は置き去りにされていた感が否めません。そんな日立市に住む外国人に避難の仕方、初期消火の仕方など通訳の方を交え分かり易くそして楽しく講義が行われました。その後実施された防災交流サロンでは、軽食を楽しみながら参加者とスタッフとの明るく活発な意見交換なども行われ、最後にお楽しみ抽選会で幕を閉じこの日の活動を終わりました。



参加者の明るい笑顔

終了後、福地さんに今後の活動についてお伺いしたところ「外国人に喜んでもらえるとうれしいのですが、その反面押しつけになっていやしないか？独りよがりになっていないか？といつも自問自答しています。私たちの活動に全く参加して頂けない外国人も多く、本当に困っている方ももっとたくさんいるはず。また差別も偏見も未だ少なくなく、地域との共生をすすめて行く必要を感じています。」まだまだ課題山積なのだということが窺われました。なお日立市では現在、日立国際交流協会を通して、フレンドリーあんず等5団体が市内居住外国人に対するサポート活動を行っており、更に連携を深め、キメの細かい活動で日立市に住む外国人が安心して生活できるよう期待されています。



交流サロンに集まったみんなと

